

第2節 優れた環境人財の育成

本市では、「まちづくりは人づくり」とし、市民は最も重要な財産であると考え、「人財」育成の取組を進めてきました。とりわけ、環境問題の解決には、一人ひとりが環境との関わりを理解し、具体的な行動に結びつけることが重要であることから、環境教育・環境学習に積極的に取り組んでいます。また、平成23年6月に改正された「環境教育等促進法」では、体験学習に重点を置いた取組から幅広い実践的人材づくりへと取組を発展させるため、具体的な規定が充実されました。今後、この法律の趣旨を踏まえ、あらゆる世代における環境学習・体験・協働の充実を図るとともに、専門的かつ実践的な知見を身につけた人財を育成します。

1. 「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進

(1) ESDについて

ESDとは、持続可能な開発のための教育＝「Education for Sustainable Development」の略称です。2002（平成14）年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）」で「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」を日本が提案し、2005（平成17）年から国連など世界規模の取組が始まりました。

近年、地域の課題は多様な問題が複雑に絡み合っており、少人数のみ、単一分野のみの取組では、解決が難しいのが実情です。様々な分野の多くの方々が、「つながり、結びつき、一緒に考え、取り組む」ことが「課題解決への鍵」となります。ESDとは、地球や日本の課題を、最も実感できる身近な地域からの取組で乗り越えていく、すなわち多様な人々が地域等のさまざまな課題に気づき、自発的に社会のあり方を変えていく人財を育む学習・教育です。

ESD活動の対象は、学校教育だけでなく、社会教育や企業の人材育成など、持続可能な社会づくりに向けた人づくりにつながる全ての活動が該当し、分野も環境、人権、福祉、ジェンダー、多文化共生など多岐にわたります。

(2) 本市が目指すESD

「世界の環境首都」「環境未来都市」の実現を目指す本市の目標は「持続可能な社会」を構築することであり、「北九州ESD」はまさに、それを担う人づくり場づくりのための活動です。本市では、市民・NPO、学校、企業、行政等からなる「北九州ESD協議会」を中心に、ESD活動を推進しています。その活動において、「感じる」「学ぶ」「行動する」「つながる」「広がる」「共有する」ことができるESDの視点を持った人財を育成するため、参加体験型の実践学習を重視し、市民への啓発を進めています。



(3) 国連大学・地域拠点（RCE）の認定

国連大学は、全世界でのESDを推進するために「ESDに関する地域拠点（RCE:Regional Centre of Expertise）」づくり及びそのネットワークの構築を進めています。

本地においては、平成18年に「RCE北九州」として国内4番目のRCEとして認定されました。これを通じ、国内外のRCEとの連携強化を図るとともに、本市のESD活動の発展に努めています。

（平成27年1月現在のRCE:130地域、うち国内6地域）

(4) これまでの取組

当初、44団体で発足した北九州ESD協議会は、現在では大学や企業をはじめ、環境活動や多文化共生などを実践する75団体（平成27年3月現在）まで輪を広げ、各専門分野を活かした活動やパートナーシップによる取組を進めています。

（平成26年度の主な活動）

- ・「ESDの10年」の最終年を迎える平成26年は「ESDの10年締めくくり会合 in 北九州」を開催し、九州ESDとしての2015年以降に向けた提言をとりま

とめ、最終年会合「ESDに関するユネスコ世界会議」へ九州ESDの提言を発信

- ・「より良い未来づくり」に向けて、既に地域で行っている様々な活動に、持続可能なまちづくりの視点を加えていただく（+ESD（プラスESD））ため、地域活動の核となる市民センター館長等を中心にESDコーディネーター研修を開催
- ・市内10大学の連携による「まなびとESDステーション」において、大学生を中心とした20を超える地域の課題解決に向けた活動を実施
- ・北九州ESD協議会、まなびとESDステーションを中心に、「ESDに関するユネスコ世界会議」に参加



ESDの10年締めくくり会合 in 九州



ESDコーディネーター研修

(5) 今後の取組

平成26年の「ESDに関するユネスコ世界会議」では世界規模によるさらなる取組強化が強調されました。そのため、これまでの取組に加え、

- ・今後の方向性や国の動き、本市の活動状況をふまえた新たな活動計画「北九州ESDアクションプラン」の策定
- ・地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成と実践事例の創出、発信
- ・若い世代、企業への重点的な取組支援と啓発強化
- ・ユネスコスクールやまなびとESDステーションとの協働推進などを行います。

2. 北九州市環境首都検定の実施

(1) 目的

本市では、市民環境力の強化を図るため、平成20年度に「北九州市環境首都検定」を創設しました。

これは、「北九州市環境基本計画」（平成19年10月策定）の戦略プロジェクト並びに「北九州市環境モデル都市行動計画」の取組の一つです。

北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げるとともに、本市の環境首都への取組における認知度を高め、エコライフの取組を身近に感じることができると期待しています。

平成26年度は、本会場以外にも、市民センター等での

受検をモデル的に実施しました。

また、ていたんとブラックていたんが初めて受検し、子どもたちに環境学習の大切さを伝えました。

(2) 検定の概要（平成26年度）

【受検資格】なし

【受検料】無料

【出題形式】ジュニア編：問題数25問（4択形式）
一般編：問題数50問（4択形式）
上級編：問題数50問（4択形式）

【合否判定】70点以上合格

【出題範囲】

- ・ジュニア編：小学校高学年用環境教育副読本「みんなで守ろう!!きれいな地球」+副読本追加版
- ・一般編：公式テキスト
- ・上級編：公式テキスト+時事問題等



検定実施会場



平成26年度表彰式

(3) 実施結果（平成26年度）

【実施日時】

平成26年12月14日（日）10:00～11:00

【会場】

西日本総合展示場、市民センター等（松ヶ江南、志井学童保育クラブ）

【実施結果】

	ジュニア編	一般編	上級編	計
受検者数	1,339人	960人	125人	2,424人
平均点	62.2点	61.8点	62.1点	62.0点
合格者数	442人	313人	42人	797人
合格率	33.0%	32.6%	33.6%	32.9%

【特徴】

- ① 家族、学校、企業、地域団体など様々なグループで受検（70団体、879人）
- ② 幅広い年齢層で受検（8才～84才）
- ③ 市外からも57人が受検（長崎県、大分県、山口県等）

(4) 今後の取組

平成27年度は、12月13日（日）に実施します。受検

者の皆さんからいただいたアンケートの結果も参考にしながら、より楽しく、より役立つ北九州市らしい検定制度を確立し、環境への意識の向上、ライフスタイルの変革につなげていくことを目指します。

また、企業のCSR活動に役立てていただくなど様々な場での活用の拡大を図っていきます。

3. 北九州環境みらい学習システムの推進

(1) 目的

本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等をつなげ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行い、「環境未来都市」推進の原動力となる「市民環境力」の向上を目指します。

(2) これまでの取組

ア. エコツアーガイド等人材育成

これまで研修を行った観光ボランティアガイドなどを対象に、環境ガイドとして本市の環境施策のフォロー研修を実施しました。また、海外からの視察者に本市の強みである環境の取組を正確に伝え、発信できる、本市の環境に精通した環境通訳の育成に取り組みました。

イ. 環境学習（エコ）ツアーの実施

多世代の市民が参加し、本市の環境について楽しく学びながら、環境に関する知識や行動力を身に付けることができるように、市内の環境スポットを周遊するエコツアーを実施しました。また、民間企業などによる地域団体や一般市民向けオリジナルツアーの実施・支援を行い、約6,700人の参加がありました。



若松満喫ツアー



北九州市の歴史と文化を学ぶツアー

ウ. 環境学習の支援と情報発信

平成26年12月に、北九州市で出来る環境学習に関する相談窓口として、環境ミュージアムに「環境学習コンシェルジュ」を配置しました。学びのテーマに応じた環境体験学習施設やプログラムの紹介、環境学習に役立つ施設を巡る体験型エコツアーの企画立案、学校での社会見学や企業研修などの提案やアドバイスを行っています。また、「北九州環境みらい学習システムホームページ」(<http://www.eco-learning.jp/>)

において、環境関連施設情報や最新のイベント等の情報を広く、分かりやすく発信しています。

エ. エコツアーガイドブック等広報物の発行

テーマごとのエコツアーガイドブック「公害克服編」・「自然環境編」・「環境産業編」・「環境まちづくり編」「東田編」「若松編」（日・英・中・韓各言語版）を配布しています。



先進的な環境の取組が進んでいる地区「東田編」と「若松編」

(3) 今後の取組

今後は、環境学習コンシェルジュによる環境学習プログラムの情報集約と各種環境学習施設等とのネットワークの強化を図るとともに、情報発信を進めます。また、継続してシステムを支えるための人材育成に取り組みます。

4. 環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

(1) 北九州市環境ミュージアム

平成13年（2001）に開催された北九州博覧祭のパビリオンとして誕生以来、本市の環境学習・活動・交流の総合拠点となっています。様々な地球環境問題をはじめ、本市の公害克服の歴史や身近なエコライフの取組、市民・企業による多様な環境保全活動などを展示しており、これらをガイドの分かりやすく詳しい解説により、「見て触れて楽しみながら」学べる施設です。

館内には、情報ライブラリーを設置し、書籍やビデオなど揃え、パネルや実験機器などとともに貸出も行っています。また、再使用の促進に向け、子ども服のリユース品も販売しています（74ページ参照）。

●平成26年度来館者数

134,124人

●環境ミュージアムHPアドレス:

<http://eco-museum.com/>



第3ゾーン「地球環境とわたしたち」

■新たな情報発信ツールであるAR（拡張現実）の導入

ミュージアムの展示内容に連動して、スマートフォンなどの携帯で映像などを表示し、紹介内容を拡張するARを設置し、学習機能の充実化に向けた仕組みづくりを進めています。



(2) 北九州エコハウス

平成22年4月に環境ミュージアムに併設し、21世紀環境共生型モデル住宅として、環境に優しい住まいづくりの情報発信等を行っています。



(3) 体験学習プログラム「地球の道」

環境ミュージアムの隣接地に平成24年10月、46億年の地球の歴史を460mの距離に置き換え、その道をガイドと歩きながら地球環境の大切さを学ぶ体験学習プログラムを開設しました。



(4) 環境学習サポーター

環境ミュージアムを拠点として、館内外の市内全域で、環境学習・活動の活性化に向けてサポートを行う市民ボランティアです。様々なエコ工作や環境実験のアクティビティなどをはじめ、ミュージアムガイドと連携した多様な体験型学習を通じて楽しみながら市民の環境意識の醸成を図るお手伝いをしています。

また、これらのプログラムを小学校や市民センターなどでも“出張環境ミュージアム”として行い、地域の環境活動を推進しています。

他にも、ごみ処理工場や浄化センター等のガイドを市民目線で行うなど、環境に関する知識や学習の指導者としての技術習得に努めながら、市全域で幅広く活動しています。



環境学習サポーターによる体験学習

●平成26年度の実績

・環境学習サポーター登録数・・・68人

・活動日数（のべ）……………351日

・活動人数（のべ）……………2,516人

5. 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」とは、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブです。平成26年度は、18クラブ、534人の幼児から高校生までが活動し、子どもたちの主体的な環境活動が促進されました。

また、登録クラブ間の交流会を実施、エコクラブだよりの発行、未来ホテルデーに参加しました。



平成26年度交流会の様子

6. 環境教育副読本による環境学習の推進

幼児から中学生までの発達段階に応じた環境教育副読本を平成12年度から平成18年度にかけて作成しました。本文に本市の事例を用いることで、低炭素社会のよさを子どもたちに気づかせ、身近なところからエコライフに取り組んでみたいと思えるような教材にしています。教育現場では、総合的な学習の時間などで積極的に活用されています。

- 1 幼児用「コスモスほしからきたベルル」A4判汎用型
- 2 幼児用「コスモスほしからきたベルル」大型絵本
- 3 幼児用「コスモスほしからきたベルル」点字体と音声CDセット
- 4 小学校低学年用「地きゅうはみんなのおともだち」
- 5 小学校中学年用「もつと知りたいみんなの地球」
- 6 小学校高学年用「みんなで守ろうきれいな地球」
- 7 小学校教師用指導書
- 8 中学生用「未来につなごうゆたかな地球」
- 9 小学校高学年用別冊公害克服編「青い空を見上げて」

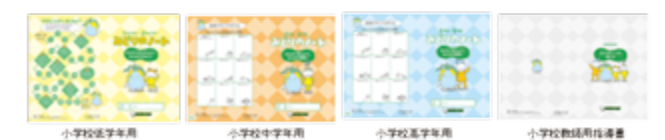


1~3 4 5 6



7 8 9

また、自ら環境に対する正しい知識を身につけるとともに、感受性を育てていくことを目的とした環境教育ワークブック「みどりのノート」を平成21年度に作成し、平成22年度より市内の全小学校に毎年配布しています。



小学校低学年用 小学校中学年用 小学校高学年用 小学校教師用指導書